

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

プラスチック資源循環・海洋プラスチックに関する取組み事例

大塚製薬 株式会社

事例1: ペットボトル軽量化

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://www.otsuka.co.jp/csr/environment/activity/>

2007年に「ポカリスエット」の500mlペットボトルにエコボトルを採用し、従来製品の約30% (27g→18.3g)のペット樹脂を削減しました。

現在、軽量化ボトルは、「ポカリスエットイオンウォーター」「アミノバリュー」そして「エネルゲン」にも展開しています。

ペットボトル軽量化

500ml
一本あたり **8.7g** 削減

ラベルの薄肉化

ラベルあたり **0.4g** 削減

キャップの軽量化

一個あたり **0.3g** 削減



事例2: プラスチック容器包装軽量化

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://www.otsuka.co.jp/csr/environment/activity/>

SOYJOY は、従来製品よりプラスチック包装(ピロー包装フィルム)樹脂を 26%削減しています。カロリーメイト、ファイブミニ、ジョグメイト、エネルゲンブランドのゼリー製品では、容器変更により、樹脂使用量を 13%削減しました。

SOYJOY
ピロー包装フィルムの減量化

一本あたり **26%** 削減



カロリーメイト、ファイブミニなどのゼリー製品
プラスチック樹脂の軽量化

一個あたり **13%** 削減



事例3： 使用者の利便性に加え廃棄物削減にもつなげる製品開発

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://otsuka.disclosure.site/ja/themes/23#37>

抗精神病薬「エビリファイ持続性水懸筋注用(LAI)」では、流通過程での耐衝撃性、医療従事者の取り出しやすさ、さらには廃棄性への配慮等、さまざまな工夫を取り入れたパッケージを採用しています。パッケージの総合的・多角的な優秀性が認められ、「2016 ジャパンパッケージングコンペティション」で薬品部門賞を受賞しました。



大塚製薬：「エビリファイ持続性水懸筋注用」

事例4： 地域と連携した「国際海岸クリーンアップ活動」への参加

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://otsuka.disclosure.site/ja/themes/22#148>

社員ボランティアで構成する「大塚製薬環境クラブ」には、徳島在住のグループ社員も多く参加し、自治体等と連携・協力しながら、海岸清掃の実施、清掃時のゴミデータの収集・提供を通じた「国際海岸クリーンアップ活動」(主催：一般社団法人 JEAN)への参加等積極的な活動を進めています。この取り組みが評価され、「とくしま環境県民会議※表彰」を受けました。



「大塚製薬環境クラブ」

事例5: 「あどふと・エコスクール」の活動

<取組みの概要、(数値)目標、実績など>

参照 URL

<https://otsuka.disclosure.site/ja/themes/32>

大塚製薬、大塚化学、大鵬薬品は地域の学校と協定を結び、「あどふと・エコスクール」の活動に 2007 年から継続して参画しています。「あどふと」とは英語で養子縁組を意味し、グループ 3 社が里親となり地域の学校を養子として環境学習活動を支援する取り組みであることを表しています。2016～2018 年度の 3 年計画で徳島市内の中学校への活動支援を行っています。2016 年度は、「学校からの排出ごみゼロを目指す」取り組みの初年度として、「環境学習会」を開催して、ゴミ問題等についての学習機会を提供しました。またごみゼロに向けて先進的な取り組みを行う徳島県上勝町の見学等を行いました。これらの学習の成果は、「第 10 回とくしま環境学習フォーラム」および、大鵬薬品で開催した「『地域・地球』環境活動セミナー」にて発表しました。「あどふと・エコスクール」が生徒たちにとって身近な環境問題に目を向けるきっかけになることを期待しています。

お問い合わせ先 : <https://www.otsuka.co.jp/contacts/>



2018年10月29日

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

日本コカ・コーラ株式会社

コカ・コーラシステムは、容器の課題に覚悟をもって取り組みます。「容器の2030年ビジョン」をグローバルに掲げ、まず、2030年までに販売した量と同等量のPETボトルや缶を回収することに取り組めます。回収する容器は自社・他社を問いません。また、容器の原材料としてリサイクル素材の採用を進めます。

具体的には、2030年までに日本国内においてPETボトル一本あたりの含有率として、平均50%以上を目指します。現在日本で使用しているほとんどの容器がリサイクル可能ですが、2025年までには100%をリサイクル可能とすることにも取り組みます。

廃棄物ゼロ社会の実現は、コカ・コーラシステムが単独で成し遂げられるものではなく、また、時間や労力を要します。しかしながら、こうした社会の実現は極めて重要であり、そのための行動を着実に行う必要があるという認識のもと取り組んで参ります。

これらの継続的な活動をさらに推進すべく、日本コカ・コーラ株式会社は2018年1月には、2030年を目標年とする、容器の新たなビジョン（「容器の2030年ビジョン」）を発表しました。「容器の2030年ビジョン」は、2018年1月19日に米国のザ・コカ・コーラ・カンパニーが発表した、廃棄物ゼロ社会の実現を目指すグローバルプラン¹に基づくものです。

「容器の2030年ビジョン」の達成に向けて、日本のコカ・コーラシステムは以下の3つの柱から成る活動に継続的に取り組んでまいります。

¹ <http://www.cocacola.co.jp/press-center/news-20180119-21>

- PET ボトルの原材料として、可能な限り、枯渇性資源である石油由来の原材料を使用しません。原材料としてリサイクル PET あるいは植物由来 PET の採用を進め、PET ボトル一本あたりの含有率として、少なくとも 50%以上 を目指します。
- 政府や自治体、飲料業界、地域社会と協働し、国内の PET ボトルと缶の回収・リサイクル率の更なる向上に貢献するべく、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築とその維持に取り組みます。また、国内で販売した自社製品と同等量の容器の回収・リサイクルを目指します。
- 清掃活動を通じて、地域の美化に取り組みます。また、容器ゴミ、海洋ゴミに関する啓発活動に積極的に参画していきます。

関連 URL: <https://www.cocacola.co.jp/sustainability/report>

連絡先

担当部署：広報・パブリックアフェアーズ本部

電話番号：03-5466-8104



「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

◆ UCC上島珈琲株式会社

都庁舎内店舗における紙ストローの試行に参加

UCC上島珈琲株式会社は、東京都が使い捨てプラスチックの削減について考える取り組みの一つとして実施の「都庁舎内店舗でプラスチックストローに代わって紙ストローを使用」に、2018年10月1日より参加しています。

また、UCCグループのコーヒー関連機器製造販売会社であるラッキーコーヒーマシン株式会社では、環境への配慮のニーズの高まりを受け、10月より紙ストローの取扱いを開始しました。

プラスチックストローは、昨今、欧米諸国で問題になっており、PETボトル容器のようにリサイクルが進んでいません。

今後もこのような、私たちにできる環境負荷低減となる取り組みや、私たち一人ひとりが、環境問題を考えるきっかけとなる取り組みにチャレンジしていきます。

◆ 実施店舗と1日平均の紙ストロー使用本数

第一本庁舎1階

- ・ HOKUTO (ほくと) 300本/日平均
- ・ MINAMI (みなみ) 70本/日平均



(使用しているストロー)

連絡先：UCC上島珈琲株式会社

担当部署：品質保証室 CSR担当

2018年11月15日
雪印メグミルク株式会社



「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

雪印メグミルク株式会社では、プラスチックが海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、限りある資源として適切に循環されていくよう、製造工程から排出されるプラスチックのリサイクルに取り組んでまいります。

弊社野田工場のヨーグルトの充填工程で、カップの形成に伴い発生するポリスチレンシートの端材について、従来まではアルミ箔が付着していたため焼却処理となっていました。これにより年間27tのポリスチレンがリサイクルされる見込みです。

ポリスチレンシートは細かく粉砕され、洗淨・脱水工程でアルミ箔や不純物を取り除いた後、高温で溶融して成型機でペレットという粒状の状態にします。

ペレットは再加工されて車のおもちゃのボディ部分やプラスチック製貯金箱となりリサイクルされます。



連絡先： 〒160-8575 東京都新宿区四谷本塩町5番1号

担当部署： 雪印メグミルク株式会社 CSR部 環境グループ

電話番号： 03-3226-2408

以上



2018年11月15日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

農業用フィルムリサイクル促進協会

使用済み農業用フィルムの資源循環の取組

農業用フィルムリサイクル促進協会は、従来より使用済み農業用フィルム（農ビ・農P0）完全循環システム構築をめざして活動している。今回の海洋プラスチック、中国プラスチック屑輸入禁止等による廃棄物の問題対応に繋がる従来からの活動を継続し、施設園芸等の発展に貢献する。

- 使用済み農業用フィルムの100%回収をめざして啓発活動、優良事例の紹介等により農業者・協議会を支援する。
- 回収された使用済み農業用フィルムのスムーズな処理及びリサイクルされるよう低コストで採算性があり、且つ、持続可能な国内循環モデルの調査、開発及び普及に取り組む。

連絡先：農業用フィルムリサイクル促進協会

TEL：03-5757-2051

プラスチック資源循環アクション宣言

私たち日清食品グループは、プラスチックに起因する資源、海洋ゴミ、地球温暖化などの課題に対して、私たちが提供する製品を通じてこれらの課題解決に取り組んでまいります。

私たちは2008年に、地球環境のため、主力製品であるカップヌードルの容器を石油由来のプラスチック製容器から再生可能資源である紙製容器へ変更しました。限りある資源を有効活用し持続可能な循環型社会の実現に向け、今後は更に、バイオマス資源（紙、バイオマスプラスチック、生分解性プラスチック）の適用拡大も図ってまいります。

これまでの取り組み

2008年「ECOカップ」の誕生

- + 有限資源である石油由来の **プラスチック** 製容器から
- + 再生可能資源の **紙** 製容器へ変更

「地球のために (For Ecology)」
 「みんなのために (For Customer)」
 「おいしさのために (For Originality)」



これからの取り組み

容器包装をさらに ECO化

- + バイオマス資源で **資源、地球温暖化問題** に対応

バイオマス 資源の適用拡大
 (紙、バイオマスプラスチック、生分解性プラスチック)

